

A区分・C区分共通
No.1(実演芸術・メディア芸術)

令和7年度舞台芸術等総合支援事業(学校巡回公演)出演希望調書(実演芸術・メディア芸術 共通)

別添	なし
----	----

分野、種目(該当する分野、種目を選択してください。)

分野	伝統芸能	種目	歌舞伎・能楽
----	------	----	--------

応募区分(応募する区分を選択してください。)

応募区分	A区分
------	-----

複数応募の状況(該当するものを選択してください。) ※B区分継続団体については、応募企画数から除く

複数応募の有無	有	応募総企画数	2企画
---------	---	--------	-----

複数の企画が採択された場合の実施体制(該当するものを選択してください。)

※複数応募の有無で【無】を選択された場合は、未記入で構いません。(グレーアウトされます。)

複数の企画が採択された場合の実施体制	公演の実施時期が重複しなければ、複数の企画を実施可能
--------------------	----------------------------

文化芸術団体の概要

ふりがな 制作団体名	こうえきざいだんほうじん かまくらのうぶたい		団体ウェブサイトURL
	公益財団法人 鎌倉能舞台		https://www.nohbutai.com/
代表者職・氏名	代表理事 石渡 徳一		
制作団体所在地	〒 248-0016	最寄り駅(バス停)	長谷駅
	神奈川県 鎌倉市 長谷 3丁目5番13号		
電話番号	0467(22)5557		
ふりがな 公演団体名	こうえきざいだんほうじん かまくらのうぶたい		団体ウェブサイトURL
	公益財団法人 鎌倉能舞台		https://www.nohbutai.com/
代表者職・氏名	代表理事 石渡 徳一		
公演団体所在地	〒 248-0016	最寄り駅(バス停)	長谷駅
	神奈川県 鎌倉市 長谷 3丁目5番13号		
制作団体 設立年月	1973年7月		
制作団体組織	役職員	団体構成員及び加入条件等	
	理事:石渡徳一、藤川譲治、中森貫太、大崎哲郎、近藤浩通、若林隆壽、井出太一、坂倉徹、浅尾慶一郎、永田まりな、監事:露木朗、矢島茂行	団体構成員]能楽協会所属能楽師(鎌倉能舞台より出演委託した者) [鎌倉能舞台賛助会員]能楽愛好者	
事務体制 事務(制作)専任担当の有無	他の業務と兼任の担当者を置く	本事業担当者名	中森三佳
経理処理等の 監査担当の有無	有	経理担当者	宮本 泰三(税理士)
本応募にかかる連絡先 (メールアドレス)	webmaster@nohbutai.com		

<p>制作団体沿革・ 主な受賞歴</p>	<p>【公益財団法人鎌倉能舞台】 ・昭和33年4月 中森晶三能楽研究会発足、同34年4月 鎌倉能の会と改称。 ・同年10月「鎌倉薪能」創立に参画。 ・同年「中高校生対象の能楽教室」開始。約300回、30万人に実演提供。 ・昭和44年7月 財団法人の認可。同45年5月 鎌倉能舞台の建築落成。 ・同年より「県民のための能を知る会」(年間22回～30回)開始。 ・昭和49年より「能を知る会東京公演」(年間4～6回)開始。 ・薪能の発展に尽力(27箇所200回以上)。 ・平成15年より日本財団事業「中高生のための能狂言教室」開始。 ・平成20年より文化庁「本物の舞台芸術体験事業」受託開始。 ・平成23年11月 公益財団法人(神奈川県)認定。 主催公演・受託公演・学生向け公演併せて年間約50公演以上、およそ16000人の観客に公演を行っております。</p>			
<p>学校等における 公演実績</p>	<p>・昭和30年代より小中高生対象の能楽教室を開始して以来、50年以上に亘って、学校体育館や公民館等での学生向け公演を実施し、平成15年度より平成25年度まで日本財団の助成を受け、「中高生のための能楽体験教室」を毎年10校～15校の学校対象に実施、平成19、20年度には文化庁「人材育成事業」を受託し、小樽、四日市、彦根、神奈川県等での子ども向けワークショップ・狂言鑑賞教室を実施しました。 ・平成21年度から文化庁「地域活性化事業」を受託し、鎌倉市内小学生への狂言教室を行い、令和1年より鎌倉市教育委員会主催で小学6年生16校の狂言教室を行っております。 ・平成19年度より、神奈川県共催の『中・高校生のための能・狂言鑑賞体験教室』を開催、神奈川県・小田原市主催の能楽ワークショップを行っております。 ・平成30年度より、鎌倉市の助成により小中学生のみで能を上演する「鎌倉子ども能」を主催しております。 ・10年以上にわたり毎年、慶應義塾湘南藤沢高等部の2年生への能楽鑑賞教室を行っております。</p>			
<p>特別支援学校等における公演実績</p>	<p>・平成21年度:横須賀ろう学校にて「本物の舞台芸術体験事業」公演を実施。ワークショップ・解説・狂言「附子」・能「羽衣」上演しました。 ・平成27年度:長崎県立ろう学校にて「文化芸術による子供の育成事業」実施。プロジェクターにより字幕をスクリーンに映し出して、字幕付きでワークショップ・解説・狂言「柿山伏」・能「安達原」を上演しました。 ・平成29年度:札幌視覚支援学校にて「文化芸術による子供の育成事業」実施。能楽鑑賞の手引き・字幕台本を事前に学校へ提供し点字変換を行い、ワークショップでは本物の能面・装束・頭を触手してもらった上で、本公演で狂言「柿山伏」・能「小鍛冶」を上演しました。 ・平成29年度:青森県八戸聾学校にて「文化芸術による子供の育成事業」実施。プロジェクターにより字幕をスクリーンに映し出して、字幕付きでワークショップ・解説・狂言「柿山伏」・能「小鍛冶」を上演しました。</p>			
<p>参考資料の有無</p>	<p>申請する演目のWEB公開資料</p>	<p>有</p>		
	<p>※公開資料有の場合URL</p>	<p>https://youtu.be/Xq2NaxPOVJo?si=JKhvvgc08BJ0manE</p>		
	<p>※閲覧に権限が必要な場合のIDおよびパスワード</p>	<p>ID:</p>		
		<p>PW:</p>		

別添	あり
----	----

公演・ワークショップの内容

【公演団体名 公益財団法人 鎌倉能舞台】

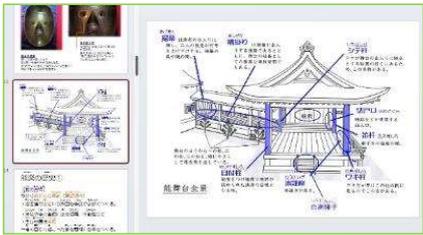
対象	小学生(低学年)	○	小学生(中学年)	○
	小学生(高学年)	○	中学生	○
企画名	能楽「敦盛」「柿山伏」 【字幕解説付き】わかりやすい能・狂言鑑賞体験教室－日本の伝統文化を知ろう			
企画のねらい	<p>①想像力の涵養:今の小中学生が生まれた頃には、インターネットを通じて多彩な映像や音声があふれており、その中で成長しています。これは非常に便利である反面、与えられたものをそのまま受け止めてしまうため、目の前にないもの、形のないものを想像する機会に乏しいともされています。能楽は台本、劇場、衣装、楽器等道具類が誕生当時からほぼ変わらない世界的にも珍しい芸能です。そのため鑑賞者は、演者の装束や持ち物、地謡の詞章、舞台上に置いてある作物をヒントにして、自分の中で場面を想像して楽しむ演劇です。能楽をとらえて、想像することの楽しさの一端にふれてもらいたいと考えています。</p> <p>②能楽の普及:伝統芸能を次代に引き継ぐためには芸の継承者は必要ですが、芸能の存在を知り、ファンとなり、新たな担い手と生み出すための「芸能を支えていただく層」の存在が必要です。小学生・中学生が公演を通じて能楽に親しみを持ちやすい演目を選定し、数十年先に伝統芸能を支援する層となってくれることを期待します。</p>			
演目概要・演目選択理由	<p>狂言「柿山伏(かきやまぶし)」:物語が簡潔で分かりやすく、台詞よりも動物の動きや声の物まねなど子供の興味をひく型が多い狂言です。小学校の教科書に採択されており、授業の理解度向上の効果も期待できます。</p> <p>舞囃子(まいばやし)「船弁慶(ふなべんけい)」:装束を着けずに紋付きのまま、能の楽器の演奏に合わせて仕舞を演じます。地謡を入れた「五人囃子」がそろそろ姿を見ていただきます。</p> <p>半能「敦盛(あつもり)」:日本史だけでなく、平家物語の名場面である平敦盛の最後の有様を示す「敦盛」をわかりやすい形の能で観劇することにより、日本史だけでなく古典文学についても子供たちに興味を持ってもらえます。</p>			
児童・生徒の参加又は体験の形態	<p>【能公演での児童・生徒の共演】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・敦盛が仕方話に舞を示す「クセ」をワークショップで練習し、地謡と一緒に謡います。また、スクリーンに字幕を出して、現代語で、場面ごとの説明をしながら見て貰います。 <p>【狂言体験での児童・生徒の参加】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・狂言と能を鑑賞した後の「狂言体験」のコーナーで、狂言の先生から狂言の基本的な「構え」や「運び(歩き方)」を教えてもらったり、「柿山伏」で見た柿を食べる演技や、笑い方などを、舞台上上がった生徒と客席の全員で体験してもらいます。 			
児童・生徒の参加可能人数	本公演	参加・体験人数目安	10人-2000人	
		鑑賞人数目安	10人-2000人	
本公演演目 原作/作曲 脚本 演出/振付	<p>【本公演 プログラム】 (第一部) 1: 始りの挨拶と解説 「能舞台について」「本日の演目について」(5分) 2: 狂言鑑賞 「柿山伏(かきやまぶし)」 鑑賞(15分) —休憩— (10分) (第二部) 3: 舞囃子鑑賞 「船弁慶(ふなべんけい)」鑑賞(5分) 4: 能鑑賞 半能「敦盛(あつもり)」鑑賞 (40分) プロジェクターに字幕投影付き 5: 狂言体験(15分) 6: 質問コーナー (10分) 【別添1、2参照】</p> <p style="text-align: right;">公演時間 100 分</p>			
出演者	<p>シテ方: 中森貫太、観世喜正、駒瀬直也、弘田裕一、奥川恒治、佐久間二郎、中野宜夫、遠藤喜久、遠藤和久、坂真太郎、鈴木啓吾、中森健之介、桑田貴志、八田達也、寺澤幸祐 等 (シテ1名、地謡6名、後見2名、働き2名、計11名) ワキ方: 殿田謙吉、宝生常三、大日方寛、則久英志、御厨誠吾、館田善博、野口琢弘 等 (計3名) 狂言方: 大藤教義、大藤基誠、善竹大二郎、榎本元、高野和憲、深田博治、中村修一、野口隆行、奥津健太郎 等 (計3名) 笛方: 寺井宏明、一噌隆之、藤田貴寛、栗林祐輔、竹市学 等 小鼓方: 幸正昭、鶴澤洋太郎、飯田清一、久田陽春子、田邊恭資 等 大鼓方: 安福光雄、柿原弘和、亀井広忠、上野義雄、柿原光博 等 太鼓方: 小寺真佐人、梶谷英樹、中田弘美 等 (囃子方 計4名) ※太字は重要無形文化財保持者。 能楽界第一線で活躍している経験豊かな「能楽協会所属能楽師」(= 玄人)で上演します。</p>			
演目の芸術上の中核となる者(メインキャスト、メインスタッフ、指揮者、芸術監督等)の個人略歴 ※3名程度 ※3行程度/名	<p>主宰 中森貫太: 観世流シテ方。重要無形文化財・日本能楽会会員・能楽協会会員、東京藝術大学音楽学部邦楽科別科修了。3才頃から故・父中森品三に師事し舞台に立つ。藝大卒業後観世喜之家に入門。1985年に独立してプロの能楽師に。(公財)鎌倉能舞台を主宰して定期公演を行うだけでなく、自らも道成寺、安宅、望月等大曲や、九世戸、大社といった滅多に上演されることの無い演目のシテも勤め、能楽の普及と共に、技術の継承も行っている。</p> <p>メインキャスト 中森健之介: 観世流シテ方。能楽協会会員。2才頃から父中森貫太、故・祖父中森品三に師事、数々の子方を演じる。慶應義塾大学卒業後、観世喜之家に入門。2016年独立。今までに乱、石橋、道成寺を抜く。</p> <p>キャスト 宝生常三: 下掛宝生流ワキ方。重要無形文化財、日本能楽会会員、能楽協会会員。故・父森茂好、故・宝生弥一に師事。嫉捨、関寺小町等、数々の大曲のワキも任される。1998年芸術選奨文部大臣新人賞受賞。</p>			
本公演 従事予定者数 (1公演あたり) ※ドライバー等 訪問する業者人数含む	出演者: 21 名 スタッフ: 2 名 合計: 23 名	運搬	積載量: 2 t 車長: 5 m 台数: 1 台	

本公演 会場設営の所要時間 (タイムスケジュール) の目安	前日仕込み		無		前日仕込み所要時間		時間程度	
	到着	仕込み		上演	内休憩	撤去	退出	
	12時30分	12時30分～13時30分		13時30分～ 15時10分	10分	15時10分～ 15時40分	15時40分	
※本公演時間の目安は、午後、概ね2時間分程度です。								
本公演 実施可能日数目安 ※実施可能時期について は、採択決定後に確認し ます。(大幅な変更は認め られません)	6月		7月		8月		9月	
	17日		18日		10日		18日	
	10月		11月		12月		1月	
	17日		15日		17日		16日	
	※平日の実施可能日数目安をご記載ください。					計		128日
公演に係るビジュアル イメージ (舞台の規模や演出が わかる写真) ※採択決定後、図 面等の提出を願 いします。								
	体育館フロアに舞台を設置した状態				体育館ステージに舞台を設置した状態			
								
	狂言「柿山伏」				能「敦盛」			
								
狂言ワークショップ				舞囃子「船弁慶」				
著作権、上演権利等 の 許諾状況	各種上演権、使用权等の許諾手続きの要 否			該当なし		該当コンテンツ名		
	該当事項がある 場合		権利者名			許諾確認状況		

※A4判3枚以内に収まるように作成してください。

別添	あり
----	----

【公演団体名 公益財団法人 鎌倉能舞台 】

ワークショップのねらい	<ul style="list-style-type: none"> ・始めてみる能楽について、プロジェクターの映像や動画を映しだして解説し、生徒たちの期待を促します。 ・謡曲の体験では、まず「挨拶」の仕方を指導し、日本語の正しい発音(鼻濁音など)を教え、音楽の授業などで日本の歌を歌う際には意識できるようにします。また囃子に合わせて謡う稽古をすることで、能のリズム感も体験することが出来ます。 ・能面をかけてもらい、能面の視界(の狭さ)を体験することにより、能舞台の四隅に柱がある意味や、見えない上に重い衣裳を着た役者の動きに興味を持ってもらいます。 ・能の楽器を実際にさわりながら、西洋音楽とは違う日本の音楽への関心を深めて頂きます。 		
児童・生徒の参加可能人数	ワークショップ	参加人数目安	10人から1000人程度
ワークショップ実施形態及び内容	<p>○事前ワークショップ「能について知ってみよう！」(能楽師3名で行います)</p> <p>(1)挨拶</p> <p>(2)謡ってみよう！ 児童・生徒全員に「敦盛」の謡の一節を謡ってもらいます。</p> <p>(3)能面をかけてみよう！ 児童・生徒に能面を実際につけて歩いてもらい、能面をかけた時の見えにくさを体験してもらいます。</p> <p>(4)能の楽器をさわってみよう！ 公演で利用する楽器を説明し、実際に触ってもらいます</p> <p>(5)能の動きをやってみよう！ 敦盛のシテの型を一緒に練習します。</p> <p>【別添3参照】</p>		
その他ワークショップに関する特記事項等	<ul style="list-style-type: none"> ・「能と狂言のしおり」を配布します。事前学習・ワークショップ時に資料として使用します。 ・能の歩き方など型を練習します。 ・本公演で能楽師と一緒に謡う謡の詞章の一節を一緒に練習します。 <div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: center;">    </div>		

別添	なし
----	----

本事業への応募理由

【公演団体名 公益財団法人 鎌倉能舞台 】

<p>本事業に対する 取り組み姿勢、および 効果的かつ円滑に実施 するための工夫</p>	<p>①本事業に対する取り組み姿勢 弊財団は、日本の子どもたちに伝統芸能を鑑賞できる機会を提供する「文化芸術による子供の育成事業」に大きな期待を寄せています。</p> <p>「能楽」は、「人類の口承及び無形遺産の傑作」として2001年に宣言され初指定された、ユネスコの世界無形文化遺産です。来日する外国人観光客にも日本文化を感じるものとして認知されているのか、弊財団の定期公演にも外国人のご来場が増えてきました。</p> <p>一方、日本人には「能楽」が縁遠い存在であることは否めません。原因は一つに求められるものではありませんが、能楽界自身が長い間、能楽の愛好者以外に普及することをしなかったことの影響は少なからずあると考えています。弊財団の創設者である中森晶三が危惧したのもその点であり、昭和40年代から普及を第一にした「能を知る会」を開始しました。普及目的であるからこそ、「本物」を準備しなくてはなりません。弊法人が考える本物とは、現代まで受け継がれてきた形をそのままに伝えることであり、まずは能と狂言を組み合わせとした「番組」の形で能楽を提供することだと考えています。能だけ、狂言だけでは「能楽」にはなりません。同じ猿楽を源流としていても、歌舞劇である能とセリフを中心とした劇である狂言を一連のものとしてみることで、両者の似ている部分、異なる部分を比較することができますし、どうして両者を組み合わせると「能楽」と称されているかについて、納得をしていただけるものと考えます。</p> <p>能楽に対していい評価も悪い評価も持っていない子供のうちに、本物の演者が本物の番組で正しい能楽を体験・鑑賞してもらい、伝統芸能に対する肯定的な評価を持ってもらいたいと思いつ一生懸命企画、準備、本番と実施しています。子供に対して真摯に向き合うことが、演者が芸をつなぐだけでなく、次世代で能楽を支える観客となってもらうために重要だと考えています。</p> <p>「番組」にするためには、一座の規模が大きくなり、事業にかかる費用が大きくなりがちなのは承知しておりますが、弊財団はこれまで文化庁、芸術文化振興基金のご理解と助成をいただきながら、正しい「能楽」をたくさんの人に伝えてきました。今後も引き続きその任にあたりたく、ご支援賜りますようお願い申し上げます。</p> <p>②事業を効果的かつ円滑に実施するための工夫</p> <p>能と狂言を楽しく鑑賞してもらうために、出演者も能楽界第一線で活躍中の経験豊かな能楽師を無形文化財保持者を中心に選び、「選び、「感動できる良い舞台」を目指します。学校では子ども達と積極的に挨拶を交わし、開演前や終演後も質問に答えるなど、コミュニケーションを大切にします。</p> <p>実施校が決まれば、体育館の規模に余裕があれば、近隣の学校にも声を掛けていただくなど、対費用効果の点からも積極的に働きかけをします。また、準備時間や退出時間も極力短くして、午前中の授業での体育館の使用等に支障が出ないように配慮します。</p> <p>客席のレイアウトも、体育館の形状に合わせて、学校側と協議しながら柔軟に対応いたします。</p> <p>子供達は何がわかっていないか、何を知りたいかを考え、現場の先生方からお話を伺いながらワークショップの解説の内容も微調整し、パワーポイントで作った資料を持参し、プロジェクターで映像や動画を映し出ししながら、能楽について少しでも理解して貰えるよう努力してまいります。</p> <p>事前ワークショップ、本公演とも、生徒が楽しかったと思って貰えるよう、生徒参加型の公演に徹底します。</p> <p>ワークショップ・本公演とも、公演に関しての学校での事前・事後ご準備は特に必要なく、プログラムの運営、舞台準備等、全て弊財団が責任をもって行います。</p>
--	---